

# 平成 30 年度 座間養護学校グランドデザイン

めざすは

児童・生徒の自立と社会参加

## 教育理念

- 一人ひとりの心身の発達、障害の状態及び特性に応じた、きめ細やかな教育を実践する。
- 自立と社会参加に必要な知識や状態を養う教育を実践する。
- 「よりよく豊かに生きる」ことを支えるインクルーシブな共生社会の実現に寄与する。

ミッションは

専門性を発揮します

日々の授業の改善を図ります

医療ケア等多様な教育ニーズの体制を整備します

キャリア教育を推進します

センター的機能を発揮します

目標は

### 教育課程 学習指導

校内研究「豊かな生活につなげる系統性のある学習指導」に取り組み、授業改善につなげます。また、多様な「チーム」により、教材教具の提案や開発を行い、授業づくりに活用します。

### 児童・生徒 指導支援

いじめの未然防止を含め、児童・生徒が安心して学校生活を送ることができる支援体制を整えます。また、個々の教育的ニーズに応じた指導・支援を実践します。

### 進路指導・支援

卒業後の一人ひとりの社会的自立や生活の充実をめざし、主体的な進路選択や個に応じた進路実現に向けた指導・支援をします。

### 地域等との協働

地域の学校等への相談支援を推進し、地域と連携した教育活動を推進します

### 学校管理 学校運営

誰でも分かりやすい、使いやすいという観点での環境整備を充実させ、高い危機意識を持ちながら安心・安全な教育を推進します。

## 学校教育計画（平成28年度～平成31年度）

座間養護学校

### （1） 学校のミッション

肢体不自由教育部門・知的障害教育部門の特別支援学校として、児童・生徒の自立と社会参加に向け、一人ひとりの障害の状態に応じた就労の取組を促進し、小学部・中学部・高等部を通して、キャリア教育推進のための、一貫した教育を行う。医療ケア等を必要とするなど、多様な教育ニーズのある児童・生徒の、登下校を含む教育活動全般について、安全に実施する校内体制の整備をすすめる、個々の障害及び健康等の状況に併せた専門性の高い指導を実践する。加えて、校内研究などで積み上げてきた教育実践の成果を生かし、一層の授業改善に取り組む。

また、共生社会の実現に向け、センター的機能を発揮し、地域の各学校における支援を必要とする児童・生徒等への教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うとともに、これらの学校と交流及び共同学習等を通じた、障害のある児童・生徒と障害のない児童・生徒との相互理解を図る。

### （2） 学校教育目標

- 明るく、思いやりのある、素直な心を育てる
- 健康と安全に留意し、強く生き抜く力を育てる
- 発達や障害に応じた学習を深め、自己の力を伸長させようとする意欲と態度を育てる
- 集団活動に楽しく参加し、進んで協力する態度を育てる

### （3） 計画作成時点での課題

- 平成28年度からの新たな学校体制を見通して、平成27年に「座間プロジェクト会議」を中心にこれからの座間養護学校のあり方について検討してきたが、その内容を具現化し、円滑な学校運営を図ることが必要である。
- 部門ごとに、キャリア教育の視点に基づいて指導内容を系統的に整理し、年間指導計画や個別教育計画に反映させる取組を行ってきた。さらに授業改善の取組と合わせて、日々の授業づくりへの効果的な活用をめざす
- 個別教育計画において目標達成度評価を実施し、個々の実態に応じた目標設定の適正化が進んでいる。さらに客観的なアセスメントを踏まえたよりの確かな実態把握に努め、個に応じた指導の充実を図ることが課題である。
- 計画的な研究授業の実施により、教員の専門性の向上を図っている。チームでの授業づくりの充実につなげていくことが課題である。
- 防災対策や緊急時の体制等整備が進んでいるが、安全安心な学校体制の構築に向け、継続的な取組が必要である。

(4) 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	《つなぐ》 教育課程 学習指導	<p>【自立と社会参加を目指す教育課程の工夫改善に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立と社会参加を目指す、系統性のある教育課程編成の工夫改善とチームでの授業改善の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部間や本校分教室間で交流・共同授業を実施し、系統的な指導のあり方を検討する。</li> <li>・各教育部門で作成した指導内容表を活用し年間指導計画や個別教育計画、単元指導計画の精選を図る。</li> <li>・研究授業と支援会議を計画的に実施し、チームでの授業改善に取り組む。</li> </ul>
2	《いどむ》 児童・生徒指導・支援	<p>【個々の可能性を伸ばさせる指導の充実に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒一人ひとりの特性や教育ニーズを適切に把握し、個々の可能性を伸ばさせる指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の実態を的確に把握するため、アセスメントの活用を図る。</li> <li>・個別教育計画の目標達成度評価を実施し、個々の教育ニーズに応じた指導の充実を図る。</li> <li>・ケース会や策定会議を計画的に実施し組織的な支援を行う。</li> </ul>
3	《いどむ・つなぐ》 進路指導・支援	<p>【個に応じた自立と社会参加の実現に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の一人ひとりの社会的自立や生活の充実をめざし、主体的な進路選択や個に応じた進路実現に向け、指導・支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別教育計画や指導案にキャリア教育の観点を取り入れて、キャリア発達を促す指導を行う。</li> <li>・進路指導計画や研修計画の内容、実施方法を見直し、個に応じた進路実現の充実を図る。</li> </ul>
4	《いかす・つなぐ》 地域等との協働	<p>【共生社会の実現に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携を図り、地域資源を活用した教育活動を推進する。</li> <li>・地域における相談支援センターとしての機能の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーやボランティア等、外部人材・資源の積極的な活用を図る。</li> <li>・地域の学校等との交流及び共同学習を推進する。</li> <li>・支援先への評価アンケートの実施により、効果的な学校コンサルテーションの方策を検討する。</li> </ul>
5	《いかす・いどむ》 学校管理 学校運営	<p>【安全安心な学校体制構築に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で安心な教育環境の整備、学校体制整備を進める。</li> <li>・教職員の人格的資質、指導力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練等の計画的な実施、教育環境の整備に取り組む。</li> <li>・各種研修を体系的な内容となるよう見直し、教職員の資質・指導力向上及び人材育成を図る。</li> </ul>

平成 30 年度の学校評価

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程・学習指導	自立と社会参加を目指す、系統性のある教育課程編成の工夫改善とチームでの授業改善の充実を図る。	①校内研究「豊かな生活につなげる系統性のある学習指導」(初年度)に取り組み、授業改善につなげる。 ②多様な「チーム」により教材教具の提案や開発を行い、授業づくりに活用する。	①学部及び分教室ごとに、サブテーマを設けて、研究を進める。 ②指導案や教材を学校で共有化する方策を考案する。	①学部及び分教室で研究が進み授業が改善されたか。 ②教材等の開発が行われたか。共有化の方策が考案できたか。
2	生徒指導・支援 (幼児・児童・)	児童生徒一人ひとりの特性や教育ニーズを的確に把握し、個々の可能性を伸ばさせる指導を行う。	①いじめの未然防止を含め、児童・生徒が安心して学校生活を送ることができる支援体制を整える。 ②個々の教育的ニーズに応じた指導・支援を実践する。	①校内の「相談支援チーム」を中心に、「予防的ケース会議」を日常化する。 ②自立活動コーディネーター(専門職)と担任との連携を図る。	①ケース会議が日常的に開催されたか。 ②専門職との連携事例を増やすことができたか。
3	進路指導・支援	卒業後の一人ひとりの社会的自立や生活の充実をめざし、主体的な進路選択や個に応じた進路実現に向け、指導・支援する。	①「座間養護学校のキャリア教育の視点(策定済み)」を踏まえた学習指導内容を実践し、指導の系統性を持たせる。 ②進路支援の取組について、職員及び保護者への理解促進を図る。	①「座間養護学校のキャリア教育の視点」を活用し、内容について検証する。 ②研修会や学習会の開催及び情報の発信方法を工夫する。	①視点の検証が行われたか。視点を踏まえた学習指導が系統的に行われたか。 ②理解促進が図られたか。
4	地域等との協働	地域との連携を図り、地域資源を活用した教育活動を推進する。 地域における相談支援センターとしての機能の充実を図る。	①地域の学校等への相談支援(学校コンサルテーション)を推進する。 ②地域と連携した教育活動を推進する。	①相談支援活動についてシステムを見直し、組織的に取り組む。 ②地域資源を活用した学習活動を実施する。	①システムを見直し、相談支援が組織的に行われたか。 ②地域資源を活用した教育活動の事例数を増やすことができたか。
5	学校管理・学校運営	安全で安心な教育環境の整備、学校体制整備を進める。 教職員の人格的資質、指導力の向上及び人材育成を図る。	①「誰でも分かりやすい、使いやすい」という観点での環境整備を充実させる。 ②高い危機意識を持ちながら、安心・安全な教育を推進する。	①環境整備について本校のスタンダードを策定し、継続できる仕組みを作る。 ②ヒヤリハット事案を大切に扱い、リスクマネジメントを意識する。	①スタンダードを策定し、環境整備が継続的に行われたか。 ②ヒヤリハット事案が収集できたか。また、その事案を活かすことができたか。